

新編水滸畫傳

五編

三

~21
875
43



とあはれ蛇と云々解室が綽號と双虎嶋と云々父母ハ俱不没して未と
 妻と娶らば兄弟各七尺竹高の身材と相貌極て兇猛之は兄弟
 此後先豹虎と捉ふべきのよしと里正より命せり別ち腰刀を
 帯し弓箭と持山上不登り此彼に徘徊し豹虎と為ぬ夜も漸く
 更の末後不登りて兄弟頗る倦れ互に背を合せて厮靠れ已に睡ん
 とせし如小忽ち扉外不弦者響はし兄弟齊しく走出て下下と願
 るに一つの大虎毒葉小中て跑あり身を地上に撲て只管ねひるふ
 友人の志これと見て表に刀を揮て弛倚しうば被虎人の為と見て
 再び半山小跑上りぬ解家兄弟急小追蒐る小被虎衝て毒葉想
 身不透り遂に捕ずして口を踏住むるとさしが被て身を翻し山
 の下小滾落りり解室是を見て兄弟對し云るハ虎の落る如毛太公

が後園の肉之我輩速小弛て虎と求むしとそ兄弟山と有り毛太
 公が被りあり門と敲し如に天及も明らりり此時毛太公自ら
 出て兄弟の去と迎へ肉小入れ兄弟懇懇に告て云るハ今期貴
 被小將候もハ他事にわづば夜来一疋の虎と太公の後園小遊落
 せり皆くハ自ら園の肉小入てれと求人とを形ふあはれ太公肯て
 伴しありんや太公云々既小かくのごらんは下下友人昨夜より倦れ
 むひしありん先酒と酌をて於て酒肴と具て友人と款待再三懇
 に勅て酒已に數巡にありし解家兄弟急ぎ虎と殺しとて遂に
 太公に於て後園小入り面八方遍く搜しられ其を虎はし太公
 云下下ハ夜中定て着保て我國の肉に為さると思ひありん又宜
 しく他事と為て見ありんや解家云来る友人東南地の去あり山上

下の案内と知りしに何ぞ見得るにわらん。毛太公が云はれに又虎のあり
 ざるいん解家が云我自ら眼を明らして。比内に陥るると見ゆぬ
 毛見更地よも血のたて遣せに豈虎のならんや。恐らくは太公の教人
 毛を流しするん。毛太公が云何ぞかくのて死すと云や必ず我教に流し
 するんを疑ふてなれ解家が云我嘗て是友府の命と交日と限て比虎
 と求む。若れと地せん必ざる罰を教人。太公もく還り更太公忽ち
 大不怒て。汝うかく非たを云へ。まか底不絨氣あり。若再び云と争ば。我
 痛く汝もどお傷ん。解家兄牙猛抗して。頸を倒に墜。汝老絨虎
 と棄て已が功不せんと思ふ。汝も子版と見せんを。傍にあり。探杆の本
 と扭折て。並に毛太公と争ておて。蒐る。毛太公急に驚て揚て。解家
 解家白直に來て絨とせんと。呼るるに俄に六人の教人持て提て。逃

解家兄牙これとたおに折樹し。並に門外不弛出て。呼るる。毛太公老絨我
 今友司不折て。事とを明し。手へも。已に友司と弛る不遂中不
 於て毛太公が息も伸義小遇し。解家これと迎て。汝が教人我
 嘗て殺し。虎と奪ひ。たて還るるし。中我今汝が教と用し。あね。又
 今友司にこれと折んと弛る。汝よれ存るるや。毛仲義が云我教
 人おの皆鄙と村まされ。必定くるるも。わん。笑太公も又教人お小
 傷られ。修と失ひ。する。汝友人速に我不墜て。再び教人來れ。若虎
 と義し。の。我子速に修に還る。兄牙の者大不怒。ひ。別毛仲義
 小怒つて。又毛太公が鼓小行る。毛仲義友人の志と引。門内お入
 り。門とちり。志に命と。門と開る。め。忽ち大者怒。小人や。若。若
 出よ。呼し。ふ。若。若。二三十人の漢子。毎子に持て。提て。弛出。お。



鮮珍寶月夜毒箭
中子虎在也

兄弟の志を承けておてくる。兄弟の志これを見て大不怒り。ひとしほ子足
と飛せ十條人でお伏し。遂に大勢お控れり。毛仲義大不罵て云
彼虎の非救我射る虎る由意。向お汝お酒を飲でま。時我もや。是
友目を送るぬ。汝白昼お来て。賊とるさんとする。最大罪之我今汝お
と友目お送て一害を除んとて。遂に囚車に載しぬ。一包の織物と役
け。刑解お兄弟と盗賊と名づけ。友府に送りぬ。時お登州の方
案。孔目姓の王名。心と云い。毛太公。婿なりし。六。頼じぬ。知府お婿い
若て解家兄弟と罪と送りぬ。知府これと後。解家兄弟と解家お
引せ大不怒て云。汝擅にう。着刀と事。妄りに虎と辱。に事託。織物を
るん。いん。已に一包の織物ある上。必ど是と抵。取とるん。解家兄弟
これと分。況せん。し。知に。王。孔。目。知。府。と。保。て。痛。く。携。向。さ。り。ぬ。れ。ば。

兄弟の志これに傍び。早速織物を白状して。自ら罪を隠し。こそ
哀され。知府お太に命じて。兄弟の者に頸枷と掛させ。遂に死囚牢に
お入り。扱毛太公。父子の解家兄弟と殺して。後患を免れんと。上
下の役人お多く。格と送りぬ。扱登州城の牢獄とせ。第一の筋
級。姓名と包吉と云て。不若の志あり。は。は。回。毛。太。公。が。格。と。は。王
孔目が。志を。後。日。解。家。兄。弟。と。呼。出。し。大。不。罵。り。し。は。兄。弟。の。志
を。實。に。罪。と。交。り。と。告。げ。れ。ぬ。包。葛。級。を。辱。し。入。は。近。日。の。内
汝らが。一命と害せん。と。再び。牢。中。小。考。り。ぬ。茲に。又。一。人。の。小。筋。級
あり。ら。が。牢。中。傍。に。人。を。さ。て。見。て。暗。小。解。家。兄。弟。の。者。に。對。し。て。低。云
る。我。足。下。等。兄。弟。と。縁。志。し。り。と。云。也。只。若。小。考。の。こ。み。て。未。だ。遇。さ。り
し。に。今。日。我。を。は。は。れ。ぬ。對。面。せ。り。を。憂。り。ぬ。唯。ち。は。兄。弟。の。人。は。我

と知るよや。又看らしし人ありや。我ハ判下等の表兄孫提轄の妻舅之
解家兄才是と。忽ち思ひ出して云。已にかくのこゝハ樂和と見えしハ
あつたや。小弟級が云。我判下姓ハ樂和。名ハ和。系第州の者。人皆我ガ諱
號と鐵叫子と。呼慣せり。我姐夫孫提轄。我武藝を好むと悦んで。
骨て檢法を教へぬ。我今兄才の人とハ縁取の好むと云。況や判下ハ
有名の豪傑なれば。我何ぞは難と救ふと心を用れず。只恨くハ彼
包蔵級毛太公が情緒と交て。是下と殺さんと。是下ハ計を
施し。是下友人救んやとて。沈吟し。是下解法が云。長兄ハ孫提轄
救ふとの慈悲あり。我ハ是下ハ去方ハ身位と通下ハ樂和ハ是下ハ
今消息を判下人ハ是下ハ。解法が云。我親昔日一人の甥女と養
子として。我友人が姐と。是下ハ。今已に孫提轄の弟孫新ハ嫁し。判下

登州城の東門の外小住し。酒と商賣に。我ハ姐ハ勇力武藝男子
不務れて。口ハ十個の人救ふと能は。名と母太虫。顧大嫂と。別て
系ハ兄才と憐む。是下ハ。姐に消息を。是下ハ。彼必自來て
我事ハ。命と救ふ。一。樂和ハ。顧大嫂の事ハ。我も骨て。及ぬ。汝友人
先心と。寛げ。我自來。是下ハ。顧大嫂と。同て。宜く。商儀。是下ハ。一。邊
に。牢中。出。東門の外。十里許。弛。是下ハ。一。射の。酒店。あり。樂和。壯
ハ。内。入。て。顧大嫂。小。ま。ま。え。て。同。名。ハ。判下。孫新。長兄。の。住。宅。
なる。や。顧大嫂。が。いと。客。ハ。孫新。と。同。名。ハ。何。の。妻。あり。や。樂和。が。
系ハ。孫提轄。が。妻。舅。樂和。と。云。今。是。事。あり。て。自。來。は。り。又
顧大嫂。が。云。弟。級。ハ。判下。我。友。ハ。縁。者。と。云。依。て。是。下。大。名。と。及。ぬ。い
し。今日。又。い。は。る。と。光。陰。と。及。ぬ。い。し。樂和。が。云。今。我。牢。中

小友人の罪後、来りたるが、友人らが大名の我久しく、嘆及び一かた。對
 面、這回が初めて二人の名、支那蛇解、一人の名、双尾蝎解、宝と、未だ
 云も、後、うき方に、顧大嫂、驚かして、いも、ひ友人、利我、弟之。ふ、何の罪
 を犯し、入牢し、るぞや。樂和、いも、彼友人、弟、一ツの虎と射て、毛太
 公と云志の園の中に、追落し、るぬ小。毛太公、武虎と落し、割大勢と
 以て、遂、小友人と、擒、擅、小、絨、情と告て、登州府、小、引、渡し、おくんづ
 包、弟、級、小、多く、極、絡と送り、近、牢、中に、敵、友人、の、一、命と害せん
 と、思、柔、何、率、れと救ひ、と、款、も、疏、力、を、以て、お、知、よ、あ、る、れ、が、今
 日は、小、玉、て、被、消息、を、知、り、し、り、中、射、に、友人、の、見、身、も、は、幸、と、大、嫂、小
 知、り、し、り、乃、ち、大、嫂、の、力、を、借、ん、と、款、に、是、處、に、救、ひ、お、ん、ん、の、思、く、く、
 誤、あ、る、ん、疾、く、許、と、回、り、し、又、顧、大、嫂、是、と、言、て、大、小、強、之、慌、く、く、

人と、馳、走、夫、夫、孫、新、と、呼、び、樂、和、小、對、面、を、し、り、り、以、樂、和、と、云、人
 へ、え、來、聰、明、伶、俐、と、て、法、教、の、樂、品、の、と、曉、し、鎗、持、武、藝、能、せ
 ざる、不、あ、し、叔、又、孫、新、の、兄、孫、立、の、武、藝、と、學、び、以、て、能、強、と、傳、ふ
 世、の、人、孫、氏、兄、弟、と、古、の、尉、遲、恭、に、比、し、て、病、尉、遲、小、尉、遲、と、諱、名、せ、り。
 其、祖、瓊、州、の、人、友、軍、の、子、孫、之、時、小、顧、大、嫂、樂、和、が、本、意、解、家、の、友人
 入、牢、の、事、を、知、り、せ、り、せ、り、に、孫、新、先、樂、和、が、源、志、と、謝、し、色、小、か、り、
 上、の、樂、長、兄、先、回、り、由、我、夫婦、の、牢、に、長、遠、の、計、と、定、り、て、後、より、
 長、兄、の、弟、小、を、平、し、顧、大、嫂、置、酒、し、て、樂、和、と、款、待、又、一、包、の、金、銀、を、
 樂、和、小、附、与、し、舅、と、樂、和、と、款、い、是、と、以、て、牢、中、に、そ、の、方、志、を、傳、へ、も、か
 ち、と、彼、是、の、使、用、小、を、し、り、り、と、て、雙、小、新、と、名、を、樂、和、又、孫、新、小、對、し、
 弟、弟、と、用、ひ、り、小、不、あ、る、ん、か、外、に、ぬ、縁、志、を、る、れ、身、と、持、て、力、と、係、す、べ、し、

満んぞく示し之とて別れて城中へ回らり

○孫立孫新大に牢と却て

顧大嫂孫新不同て云。丈夫何の計と以て。友人の兄弟と救ひおらんや。孫新が云。毛太公の元來錢材多く。勢ひおまされれば。必定支兄弟を害せんと思て。自ら休ておます。這疑せば。おれも悔るゝとわらん。以上は只牢と却て救はんの。他のお別して。の必定お合ま。顧大嫂が云。孫新が云。我丈夫とらに。今晚行可まらんや。孫新笑て。汝何ぞかく思ふ。今牢と替ん。我兄孫提轄并お知れる。叔姪鄒淵鄒涇と改めん。難さ知れ。但し鄒淵鄒涇の頃。日登雲山に在て。虎と集め。あらん人おと却て。強盗とるに。元來我と交厚し。おは友人とて。力と保し。おはけ事。忽ち

成龍せん顧大嫂が云。登雲山のけ知らる。遠くを去るに。丈夫自ら連夜に馳りて。彼友人と誘引し。又孫新が云。我別今行せし。とて。遂に登雲山。小上りり。顧大嫂の酒宴と具。其く小役て。待居るに。黄昏に。至て孫新友人の豪傑。引いて。入り来る。叔の鄒淵の。元來。の着て。へと。より。右良。重実の上。更に。又武藝の達人。うて。氣性。強うに。よ。めて。く。て。世小。客ら。れ。ど。江。湖。の。上。に。流。落。ぬ。人。皆。呼。び。出。林。籠と。綽。名。せ。り。又。姪。の。鄒。淵。の。幼。年。の。時。より。叔。が。柔。懐。小。似。て。人。と。あり。む。依。り。天。賦。異。相。う。て。腦。後。小。一。の。窟。あり。先。小。よ。り。て。獨。角。龍。と。混。名。せ。り。身。の。丈。七。尺。許。う。て。大。力。の。勇。士。なり。以。時。顧。大。嫂。自。友。人。の。豪。傑。と。延。て。後。堂。小。あ。り。飲。く。酒。宴。と。具。へ。て。餐。食。し。以。度。の。一。儀。と。要。し。く。告。て。牢。と。却。へ。さ。し。と。て。儀。し。ら。れ。鄒。淵。が。云。我。山。時。小。於。て

八九十個の人のれを用に中らん志の二十人ふ過ぎまどり。は幸と做就
 る。高地の安身候へまど。我却て身命とまべきれあり。あはれ汝夫婦の
 肯て往るべし。顧大嫂が云遮莫水火の肉ふりな。我ら夫婦肯
 て同往せん。只我ぬ人の兄才と官。救ひあり。鄒淵が云。今梁
 山泊大少警昌して。晁東友政飲も。賢也。招き士と納む。彼肉の
 政飲も我知者三人あり。涉豹子楊林。火眼狻猊鄧飛石將軍石
 勇と云。我我孫牢と却て。友人の兄才と救ひ出さ。皆共以梁山
 泊ふ入て。災ひ免るべし。汝夫婦の所存いん。顧大嫂大少娘で云。あ
 果して梁山泊に上りるば身と安ん。命とまに。是れ誰う敢て叔
 の言と背く者ありん。鄒淵が云。松一の事あり。我我孫彼兄才と
 救ひ出さ。まど。必終登州府より軍を遣て。追しめん。小何と云。これと

遮んや孫新が云。我兄孫立。今登州府去る。提轄の友とる。只是一人
 我勇務れ。まど。小掛のに。足は。我明日自。怒く兄孫立と高儀
 と。遂ん小何の難きとありん。鄒淵が云。あはれ。彼梁山泊ふ来。まど。
 必ぞ。年ふに高儀。一あり。孫新が云。我自。一の計あり。明日我
 兄に見えて。いふべし。我妻顧大嫂。今重病。小何。旦夕保ち難し。於
 かく。小何。夫ぬ自。智と。扱ひて。これと。見直と。誑て。遂に誘引して
 回。官。云と。竭し。兼允あり。び。鄒淵。是と。夢て。扱りと。口ト。れが
 孫新。翌日。家人。ホに。二の。轎と。撥し。めて。飛が。て。孫立。が。氣に。馳。け。り。
 顧大嫂。の。友人の。豪傑と。共に。消息と。伝。ま。び。居。る。如。に。孫新。已。小。兄
 と。嫂。々。と。二。乗。の。轎。に。乗。し。り。再。び。家。に。回。り。し。う。べ。顧大嫂。自。出。て
 これと。迎。み。孫立。夫。ぬ。顧大嫂。と。見。て。大。小。驚。て。云。汝。ハ。重。病。小。何。と。

左と噂るに。いんぞ自ら出てお迎ふや。顧大嫂が云我が病の実に人救ふの病之孫まが云怪る人ぞ救ふ病と云いん。顧大嫂が云伯々の未ご噂なりぬや。我牙解珍解宝前日毛太公が討ひに雲実の罪小陥され。今已に牢中にあり。故に我く夫婦牢と却て救ひ出さんと斗り。刻登雲山より友人の豪傑と迎へ。共に敵と打ち。りいよく救ひ出さば。世に梁山泊へ上ると敵に打ち。明日事出来んぞ。所禍ひ伯く小召さべ。ひゆゑに我病に托し。伯く夫婦と迎へ。共に去遠の計と敵せん。と欲に。伯く梁山泊にあり。おれも我等ハ決然馳り。世の朝廷。毎事明き。ひして。奸臣志と賢臣志と。先小迫り。と云言の天下の民。早免無事と保ち。と。後小迫り。先焦ると云言の。我等ハ幸と做中。まを。伯く先禍と蒙て。入牢し。あべ。

伯く自ら。明らに察し。自ひて。我等と日む。りんや。孫まが云我ハこれ登州の友軍あり。豈う。海木と。りん。かくの。と。と。ふんや。顧大嫂これと。噂て。忽ち刀と。抜て。云る。伯く。今我等が。公腹の言と。噂ひても。日公。あり。すん。我交して。伯々と。免さ。と。已に。刀と。揮て。近づくし。鄒淵。鄒淵も。日。と。刀と。弄して。た。た。に。お。孫ま。これ。と。見。て。お。に。呼て。云。嬪と。先。怒り。と。息。我。又。肯て。軍。高。孫。顧大嫂。が。云。ひ。企。の。伯々の。妻。舅。樂和。前。級の。孫に。依て。を。た。た。る。れ。再。三。逆。疑。の。を。と。う。れ。我。等。急。に。馳て。牢と。却。ふ。べ。さ。る。伯く。ハ。手。帳と。窺ひ。速に。行。李。ホ。と。收拾。ひて。共に。梁山泊。へ。上。り。孫ま。嘆。して。云。ひ。上。の。我。力と。保。す。し。と。て。一。如に。高。孫。と。は。小。り。先。鄒淵と。登雲山。不。回。り。し。り。て。人。數と。倍。せ。又。孫。新と。城。下。に。寄。り。暗に。樂和。に。消息と。通。解。家。兄。弟。に。新。と。若。



劫を
図



孫新夫婦
大お
宰

知せり。翌日鄒湖に二十餘人と僅し。再び孫勃が報ふありし。孫勃も
又心腹の志七八人と僅し。孫勃も同じく子下の軍卒十餘人召集せ
り。口十餘人已に用え、個へて各軍袋を帯し。二子小分て城下へ馳
り。独顧大嫂は作て牢中に飯を送る女小出立先牢門の辺にあり
居る。樂和ははは迎小侍を立らる。顧大嫂を見て故えありぬ。辨に
わてまゝ一同る。汝は何女なれば。牢門小辺づくや。顧大嫂答て我は牢中
に飯を送る者なりと云ふ。樂和やがて門を叩て顧大嫂を入りしり。
此時彼包苜級ハ。東廊の辺に立ける。顧大嫂と見ると忽ち責
て云々。女ハ誰なれば。ありに牢中に飯を送る。古の孫小牢獄を
風も通せぬと云ふ。樂和が云。汝ハ解玖解宝が姐なり。自ら飯を
携て牢中に送る。包苜級怒て云。汝いんぞ彼を放て牢中に入れ

む。汝宜しく彼女に對て。飯を牢中小送れ。樂和これと云て即ち
飯を乞ふ。遂に牢中に入れて解玖解宝小与へら。解玖暗小聞て云。昨
夜云ひ。一といふ。樂和が云。今汝の姐は飯を携て来り。おひぬ。女刻
子城下へさる。頸枷を除去待交と。匙と与へし。一人の小牢子
を引入て。包苜級小告て云。孫提轄来て牢門を敲き。おひぬ。包苜級が云
彼ハ府中の軍友なり。牢中小入て何の事ありん。必ず門を叩くこと
あり。れと。おひぬ。又一人来告て云。孫提轄只顧焦燥て。緊しく
門を敲く。包苜級大小怒り。自ら走り出んとせし。顧大嫂刀を揮て。
迎へて。包苜級是を見て。急小逃んとし。時解玖解宝牢
の窓を潰出。包苜級小向ふ。包苜級逃行べき。而も遂に解宝小
頸枷を以て。肩間と歩碎れ。忽ち地小倒て死小り。解玖も亦頸枷と

ひて小牢子に六人お伏せられぬ。顧大嫂の刀を揮て、六人斬殺しぬ。
牢中総て三五百の小牢子ども大に喊き叫んで牢外にお出りぬ。孫立
孫新これと迎て散ぐ。小斬拂ふ。鄒淵鄒潤もも王孔目も首とれ
て州裡より馳来り。壘に城介にお出り解珍解宝樂和顧大嫂も
口人の志を併多の人と殺して。遂に城介お出し。孫立孫
新二人は日く敵後して城門の外にお出してお。法人再び孫新が家に
回て孫立が妻樂和を車に載しり。顧大嫂も小乗。昨日皆梁山
泊へを奔り解珍解宝法人小對して云々。我が彼も太公老
練と殺さざして。いんぞは寛と書んや孫立が云。汝らぐを捕りて
即ち孫新樂和の車に跟しめ。先小をせ已へ解家の兄弟。鄒家の叔
姪をに數十個の人と引て壘に毛太公が壘に馳りぬ。毛太公父子の

思ひ寄るる。事なれば大不作天。獨と抜し。名知小孫立已に乱れ
入て。毛太公毛仲義さび小一敵の眷族悉く斬殺し。又今飛越家
る刀小とめて各る小赤索。急小後と暮る。馳り徑に終三口里小
出て車に逃る。再び人数をばて。急し。日あはれして梁山泊の下。
石勇が酒店小出て。鄒淵先石勇小對面し。斬る。楊林鄒飛もが事
を同られ。石勇答て云。彼友人の宋既飲小後て祝家莊と攻る。友交
の戮小利と失ひ。楊林鄒飛も外敵軍の既飲遂に款方へ生提れり。
祝家の三兄弟皆強勇る。小其上武藝の師樂廷玉と云。志ありて。
戮をゆけし。親方已小故や。ぬ。孫立これと少大。小笑て云。る。ハ
ま。今山陳を頼んで伺候せられぬ。未だ一點の功あり。存ひ。這回ラ
の計と然し。忽ち祝家莊を踏破せん。いん石勇悦んで云。汝ら良計

とて、孫立が云、彼樂廷玉、八系素と武藝の月門也。彼が学ひ、
 たる所の武藝、我も亦知らばと云、不ほ。我軍は度登州より、鄆州小
 移、新小めては、祝家莊と云り、乃彼樂廷玉と訪ふべし。彼は彼必
 然、自ら出、我軍と迎ふとありん。こに於て、肉意介合の計を以て、大
 事、之知、示、成べし。あ、彼計はいん。石勇、これと、突、究て、神之妙と、思、小
 知、小、兵、用、今、山と下て、祝家莊に、奔、向、むと、注、を、の、人、ありし、石、勇、も、亦、小
 兵、学、究、と、迎、へ、孫、立、が、計、を、告、ん、と、自、門、外、小、出、て、石、勇、も、小、兵、用、
 も、三、既、見、才、む、び、に、呂、方、郭、盛、ホ、と、も、り、又、百、の、人、を、引、て、店、の、前、
 小、り、り、石、勇、迎、へ、て、肉、小、入、り、孫、立、ホ、と、呼、出、し、兵、用、に、ま、え、
 し、め、計、の、次、第、一、く、洋、に、渡、り、し、く、兵、用、を、と、て、大、小、恨、び、劉、孫、
 立、ホ、小、對、して、云、ら、は、置、下、ホ、い、ふ、肯、て、山、陣、の、為、小、計、と、施、し、ぬ、ん

と云ふ。今日、先、山、陣、小、上、り、あ、ら、し、て、我、軍、と、共、に、祝、家、莊、に、赴、き、速、に
 計、を、以、て、功、を、今、ふ、り、あ、ん、や、孫、立、も、是、と、告、て、大、小、恨、び、衆、皆、ん、を、
 恨、け、く、飲、堂、に、兵、用、を、我、人、を、先、に、馳、べ、さ、り、法、豪、傑、の、後、より、を、こ、
 突、と、も、兵、用、へ、遂、小、人、を、使、役、して、祝、家、莊、小、入、り、先、宋、江、小、見、て、其、
 勅、靜、と、も、ら、宋、江、大、小、憂、愁、して、教、及、使、さ、り、久、兵、用、ま、つ、自、
 酒、を、以、て、宋、江、を、慰、ん、然、して、後、に、以、祝、家、莊、を、破、る、べ、き、便、宜、と、以、り、
 と、云、宋、歷、を、告、て、云、ら、は、今、登、州、の、云、り、程、轄、病、尉、遲、孫、立、と、云、云、難、
 と、避、て、山、陣、に、来、り、ら、る、が、祝、家、莊、の、師、樂、廷、玉、は、原、武、藝、の、月、門、
 あり、ゆ、え、幸、ひ、一、つ、の、計、を、以、て、祝、家、莊、を、暫、時、小、踏、破、ら、ん、と、議、定、し、
 然、て、八、人、數、十、個、の、人、を、引、て、少、刻、以、知、小、刻、差、也、不、謂、計、の、内、意、介、合、
 の、企、之、宋、江、を、告、て、大、小、恨、び、然、て、法、既、飲、と、共、に、孫、立、ホ、が、刻、を、以、て、休

して是下の妹を活捉ぬ。汝り王矮虎と曰ふ。我又汝の妹を還すべ。扈成が云王既於の今来が方にわづ。呉学究回て云汝が王英の何き小をや。扈成が云王既於の今祝家莊小あり。来いんぞ。能うれと承んや。宋江が云汝り王矮虎と曰ふ。我小還さずんば。豈うく妹を泊ることわらんや。呉用又云是下孫妹一丈を救んとす。向後祝家莊に軍わるとも。これを救ふと云ふ。祝家莊の軍士。汝の家を頼て来るもの。不速律。我が方に送り交。汝が肯て一丈を還すべし。况や一丈をの初日。已に山陣に送りて。宋太公に祝家莊に交。懇に介抱ある。是下公をあんト曰ふ。後日是下の不為と見。而け。此方より送る。扈成が云。亲自今以後。祝家莊を助くは。若怖が軍士。我が方に来る者。めく。不速をと。卿を將軍の麾下。小扶すべし。遂に別れ。回りり。

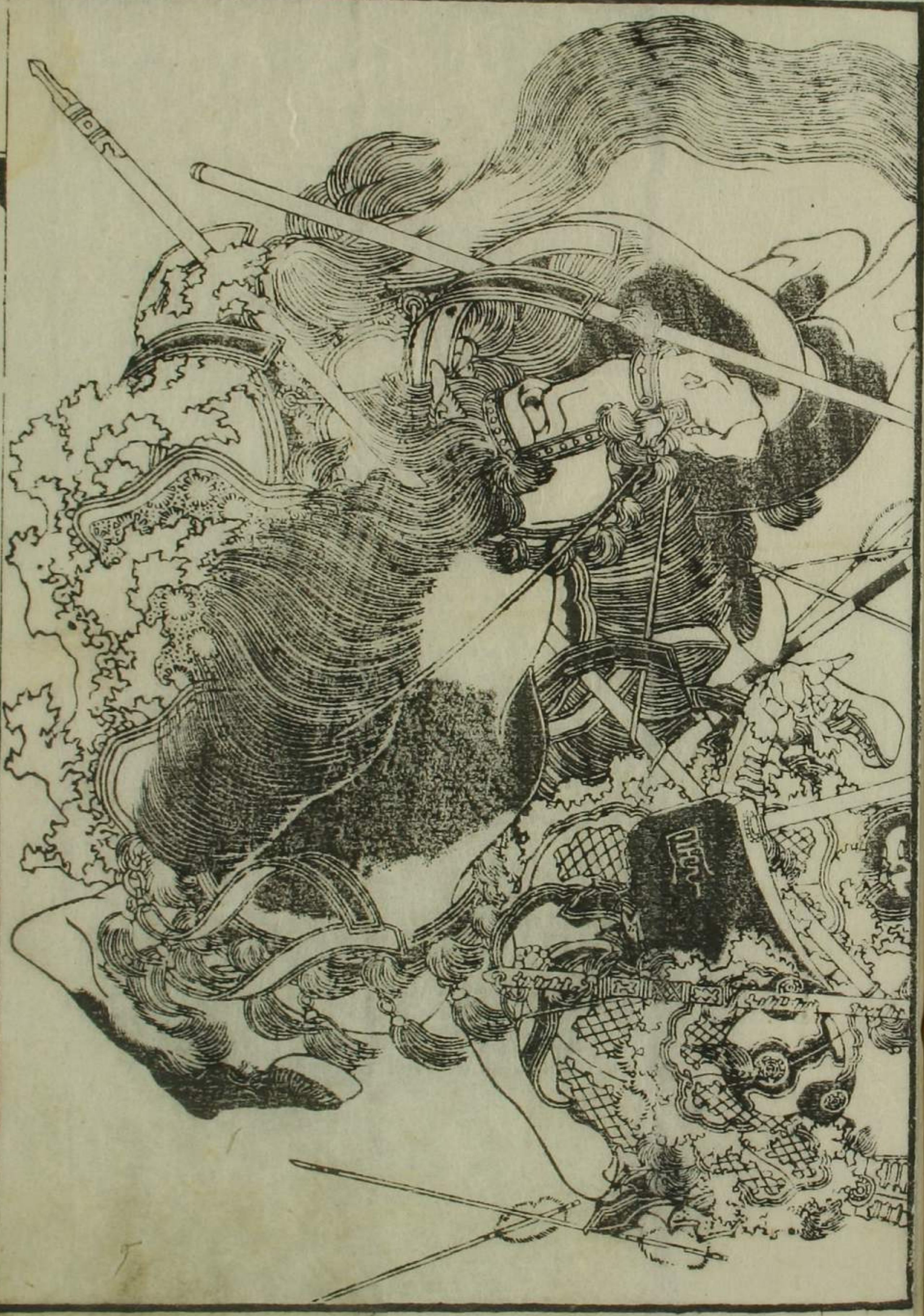
○呉学究連環の計と雙用

諸も彼孫立の旗號の上に。登州兵馬提轄孫立と云八字と大字小書。統て四十餘人と。引て。祝家莊の後。門の赤小あり。一六。莊上の軍士。小見。見。於て内。小入。初と。告。られ。樂。廷。を。な。れ。と。夢。て。祝。家。三。兄。才。若。て。云。彼。孫。提。轄。ハ。原。来。と。共。に。一。人。の。師。に。後。て。武。藝。と。学。び。一。者。有。が。今日。此。如。に。身。ハ。何。れ。中。人。来。こ。ん。と。迎。て。同。心。一。と。引。吊。橋。と。し。迎。へ。一。六。孫。立。と。遂。に。も。と。り。橋。と。り。て。内。小。入。各。礼。早。し。如。小。樂。廷。王。先。孫。立。に。向。て。云。賢。才。ハ。登。州。に。在。て。暇。を。勤。め。有。ふ。と。言。ふ。今。自。ハ。又何。等。の。事。有。り。南。地。小。あり。有。り。一。と。孫。立。答。て。云。来。這。回。鄆。州。と。も。て。梁。山。泊。の。強。賊。と。防。ぐ。と。も。能。去。府。の。文。書。と。授。け。られ。今日。妻子。と。携。へ。て。鄆。州。城。小。登。向。け。引。び。如。と。り。て。長。見。南。莊。小。居。有。ふ。と。承。り。敢。

て来て起居を候ひなる。本若門小島と欲しられぬ村に人馬
多く屯し居る。小島を過ぎて後の小島なり。樂延玉が頃日梁山
泊の強盗ホとお残ひ已に数軍の取次と活捉ぬ。近日の内宋江と捉へ
て共に友司小送さんと歎ひ喜ひ今賢才来ては辺をもちりあか捨ち
孫小花と流るがばし孫立歩笑て云。素不よりと云。若兄を助けて
宋江と擒おし。速に功を建しめをせん樂延玉これと吟て大島に
し。孫立が人数と莊内小引入れ。再び吊橋と拽起莊内と笑
し。此時祝胡を父子二人懸上小出られ。樂延玉自ら孫立ホヤ
引て懸上小島り一と見えし。各礼りし。如小樂延玉先祝胡を小
告て云。り。は賢才ハ病尉遲孫立と号して登州の去る提轄
あり。今汝を府の命を奉ては辺鄆州城ともちり由。今日社にあり

ぬ祝胡が云。已にかくわぬ。素がは如も亦提轄の支那の地なれば。
徳事下知と勢も。孫立が云。素がとと小職。何ぞ痛ずり以は人。向
後只胡奉の懇志に於んと。又三人の兄弟小對して云。り。連
日の残ひに喚れと勞し。ひし。祝胡が云。素が。胡廷の爲小
驚鈍の力とそ。以て。素が。傍故とせせ。一して。素が。座せり。
孫立。此時孫立。解。解。解。素ホ三人と呼で。祝太公父子。ま。え
し。り。云。は。三人ハ。列。素。が。兄。弟。之。と。又。樂。和。を。拵。ご。ひ。人。ハ。是
鄆州より登州に去る。ひ。ぬ。侵。之。又。鄆。州。鄆。州。を。拵。ご。ひ。人。ハ。
列。登。州。か。送。り。来。り。二人の軍友之。素。日。往。り。肉。に。武。藝。不。振。練
の。族。も。人。も。な。り。胡。奉。の。率。め。六。隅。か。り。一。方。の。利。を。示。し。あ。へ
とて。一。く。對。面。せ。り。祝。胡。奉。父。子。亦。總。明。の。實。を。れ。孫。立。に。謝。れ

竹編之奇畫傳卷之四十三



况や樂廷王が武藝の門門とてとめて一應も疑は牛と殺しとて
 宰て酒宴とは(餐)愈むをあり。孫立已に昨日とて一なる如に并
 三日の朔一人の玄來て報り。宋江又玄と棄して莊上に居る。
 祝彪が云我自ら向て汝と生擒んとす。百竹誘て引て莊外に
 歩出らるに。いや又百竹の人をを奪る。小李廣花榮尚先小車と
 してとせ。陰を推て幾と挑し。祝彪是とて大木怒り。口く陰
 と推て擲る。花榮これと迎て陰を交へ。二人の豪傑。独龍岳の前子
 在て。一往一來。拏と拏して拏と争ひ。幾已十竹合に及(た)未だ拏
 る。多(う)ざり。如に花榮詐て逃られ。祝彪後に隨て追ひ。一人の玄誘
 て云相公必ぞ花榮と追ふとまう。彼の弓箭の音もなるに。恐くは誤れん
 祝彪これ嘆てあふると回し。先玄と收て莊内に馳入る。孫立別祝

彪小回と云小將軍今日は何城と推へ多ひ。祝彪が云今日の小
 李廣花榮とやん云城の既出でて来と十餘合戦ひ。多(う)ざり。遂に
 逃し。由素是と追撃せんと思ひ。渠へ亦弓矢の達人とて
 依て。敵と追せ。先玄と收めて引回し。孫立が云素不とてとて
 其明日彼を教へと生捕て。一覽不入れんと。先今日の軍ハ休ら
 聖筭に日午の上朔に。又一人莊玄をへて云宋江が人又高ある。
 已に莊前ふぬりと報られ。祝彪祝彪各莊前ふ。門外とて
 見るに敵の軍中に金鼓大木歩鳴し。も陣勢と張りぬ。此時祝彪
 も又莊門の上に出られ。充る。樂廷玉の右ハ孫提轄めり。其
 三人なり。びに孫提轄が携へ来り。勇士を悉く。孫提轄は宋
 江が陣中より豹子。孫林冲。尚先。不とて出て大木怒りに。口く罵り

祝龍これとみて大不怒り意小鎗捨掉てる小衆一二百人と引て
 門外小斬て出せしに林冲が勢に跑合支軍日く攻鼓を搦てお我入
 肘小林冲鎗を搦て祝龍をお迎我ひ已に三十作合に及べも持負
 引とざりし六支軍互に合と鳴し先双方に引せり祝虎これと見て
 大不怒り刀を舞へし陳希に誘出し大者も揚我を挑むれど宋江が
 陳冲より没遮標穆弘鎗を輪して祝虎に渡り合支が勇を奮て
 戦ひ又三十作合程小ぬれた支不雄雌分た祝龍これと見て
 焦燥二百竹騎を率して莊外小歩出し六宋江が後より病買索
 揚雄と飛せ突てお我入に祝龍を迎へてお我小は肘孫立の莊上小
 左て支軍の我と見ゑる衣甲と忌軍急と鳥騷ると云名も小
 撃て莊外に跑出故急忍口して罵りるへ宋江及斌我今日汝を殺

まんにあぐ出て一死を乞へし宋江が陳冲より拚命三命石秀鎗を擧て
 搦て出せしに孫立とると交へてお我ひ已に五十竹合小むて孫立は六歩斗
 ると退けし六石秀お鎗を搦入し知小孫立もこれと避遂に猿蹄と
 舒して石秀と林へ懸て索と懸おり程取兄弟これと見て勢ひお我入
 攻我ひ宋江が云はば方八面に遊散し先三軍を收めて莊内小引五歩く
 孫立にまゝと承び笑したり孫立問て云活捉の賊総て幾人なりや祝
 朝奉がいさし初時遷と云斌を搦へ次に細作の斌楊林と云志と搦へ後
 ちと黃顔王矮虎秦明鄧飛ホと生捕今又支軍石秀と搦へおひしうへ
 総て活捉七人あり孫立と云速に七つの囚車と細へて彼ホとば内に入
 毎日酒食と与へて身の養生とさしめ後日宋江と生捕さば共小東京
 小送て武令と天下小振然し祝朝奉父子これとみて大に孫立に謝して云

出て東の款を撃べ。祝虎が云我も又後門にお南の方の人をも遊拂せ。祝虎が云来い赤い赤い馳出ろ。城を宋江と活捕へ。是等一肝要之祝。烟奉是と吸て大い吸ひ多く酒肉を以て三軍を養へり。徳大将各三百餘騎を引て莊門のにお出。一齊小咄と喊の智を傳り。山を驚せり。此時鄒淵河の暗に大斧を落して囚車の傍を奪乞し。了時高と河の解攻解室の軍を落して。後門の迎せり。孫新樂和の赤いの方右と出る。顧大嫂は先子母を懸て孫立が妻樂氏が車を守り。已は両刀を落して堂前に徘徊を扱祝家莊へ。三田攻鼓を撰て一つの大砲を放し。れば樂廷を射て。欲陣小突て入。下小分。お孫立は独十餘人の子母を懸し。吊橋の上におお。孫立は又已もが旗號を門樓の上に立れば。樂和は旗を捲て。お孫の消息を鄒

淵河に通じ。忽ち斧を揮て囚車をも奪軍士數十人と斬殺し。七人の豪傑を囚車より出され。七人忽ち奪く軍を。孫立は奔雷のこく吼り。前後左右にお。や百餘人斬倒せば。顧大嫂は両刀を揮て堂中に入り。家内の男女を斬殺。されば。祝朝奉大い警兵堂外へ逃出。れど。不秀是と斬伏て首を刎落せり。徳の政は。四面八方小砲を射て。莊を殺す。殺戮存と云限と云。解攻解室。二人は後門の迎に立て。軍の固に火を放し。火は。天小沖て。煙くと。焚上る。海の人。莊上。に火の起る。各力と保て。攻める。祝虎大い。孫立は。て。吊橋の迎に。馳ま。り。孫立は。橋上。小在。し。大い。罵り。て。云。汝。奸人。何れ。小。往。や。我。あ。て。鏡。を。懸。と。孫立は。祝虎。を。宋江。が。陣中

に突入しぬに方郭盛敵し〜刀と舞し祝虎とるより下ふ
 棚落しぬ莊をこれと見て恰も風の秋葉と吹放り。西の妻美を
 赤残ふ〜。此方不敵して逃去り。孫と孫新とを宋江と迎へ莊内小
 誘引せり。祝龍へ林冲と殺ひるが款〜。や思ひなん〜と面〜後
 門の辺に逃来りし如に。解珍解宝一向莊を小が死と投出〜。乃れを
 祝龍又水と争んで走り乃に。黑旋风李逵ひふあり。遂小ニツの斧
 と搦〜してより下に砍て落す。祝彪ハ独扈家莊と争で逃り
 へ扈成これと解し〜。家人等小引せ扈成自ら宋江が陣中に送
 る不。李逵才途不於〜と見付忽ち斧と揮て。祝彪と次殺
 へ。尚吼り。斬て扈成が家人ホも殺く。小斬拂ひられぬ。扈成分説
 見間もなく。遂小敵と棄て延安府へ逃りり。李逵ハ亦に扈家莊

斬て入扈太公孫に一家の眷属一人も漏さぬ。於て斬る〜。遂小下
 知して扈内と捜させ金銀茶錢刀鎗弓矢牛馬猪羊。遺さぬこれ
 と棄れ別法軍勢に携し〜。先宋江が陣中に送り。己ら只顧勢
 に棄れ。最後方太に跑り。許多百姓と逃散〜。遂小一把の
 火と用ひて。扈家莊と焼拂ひ。亦りに祝家莊と争て馳回りり。
 石秀の绰名拚命三郎と。捨命三郎小作〜。日ト字義之痛去
 云祝家莊祝朝奉農夫の豪富家と。も。此ぬハ舶来本第又十回
 あり祝彪五百餘騎と出ると。又祝家の將三百餘騎と引て也
 其條ハ門樓とち〜。あり一村百姓の集り勢を。騎を歩軍と出
 小とせよ〜。蔡太師が東京の第宅小門番少〜。不
 如合小兵多〜。作者の思慮いん。蔡大師ハ門番王公の侍と以て勤する
 と云てハ編目の七巻目小也。

